マイトップニュース

ミスマッチの解消策は

加藤 真章(かとう まさあき)さん(丹生高1年)

8月県内求人2・10倍
6ヵ月ぶり前月下回る
全国1位維持

有効求人倍率の推移

福井労働局が29日発表した8月の県内の有効求人倍率(季節調整値)は前月から0・01ポイント低下し、2・10倍だった。前月を下回るのは3月以来6カ月ぶり。ただ低下はわずかで、5カ月間にわたり全国1位の高水準を維持している。

総括原票受理日ベースで前年同月の2・31倍を上回った。雇用保険受給者の離職理由別では、「自己都合」が前年同月比2・6%増の1万1,015人だったのに対し、「事業所都合」は12・5%減の1,980人。

有効求人倍率が高い理由として、景気回復の影響で企業の採用意欲が高まっていることが考えられる。また、求職と求人のミスマッチも原因の一つであると思う。

今は、事務的職業に就きたい人が多く、それに比べて介護士や建設業など、いわゆる3K(きつい・汚い・危険)と呼ばれる職業に就く人は少ない。これらの職業については、ますます人手不足が深刻化している。

少子高齢化が進んでいる日本では、これから先、労働力人口が減少していくことは明らかである。きつい仕事を選ぶ人が増えることは考えにくく、人手不足はさらに深刻化するだろう。それを解消するために、外国人労働者を受け入れるという方法がある。しかし、まだ日本ではこれを全面的に認めているわけではないので、早く基本的な方針を決めるべきだと思う。AIやロボットの普及も、日本の未来を変えることになるかもしれない。

© 福井新聞社 無断複製・転載を禁じます